

「星の樽職人」 フェリックス・ティスラン

ジャン・コラルド

上質のワイン、多種多様な風景、豊かな過去を物語るあまたの建造物です。すでに有名なブルゴーニュは、郷土の誇る学者や発明家の才能を通して、世の中を革新する役割も果たしてきました。そして私たちは今日、そうしてもらえられた進歩を享受しているのです。

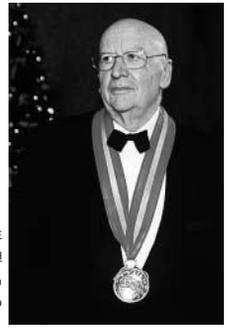
その筆頭はニセフォル・ニエブスです。彼は1822年頃、シャロン=シュル=ソヌの近くで写真を発明しました。写真は近代メディア文明に必須の要素で、後年、映画、テレビへと進化していきました。

さらに北、ディジョンの近くに、治療効果の高いワインで有名なニュイ=サン=ジョルジュの町があります。ルイ14世のお抱え医師ファゴンは、この高名な患者に肉体ならびに精神の健康のためにとワインを処方したのです。その小さな町で、1845年、樽職人の親方クロード・ティスランの一家のもとにフェリックスという名の子供が生まれました。この子は後年、天文学者となり、「星の樽職人」というあだ名で呼ばれるようになります。

当時、樽職人はとても尊敬されていました。現に、彼らの仕事ぶりいかんで、樽に入るワインの保存の良し悪しだけでなく、さらに品質が向上するか否かが決まったのです。また、彼らの活動は樽作りだけにとどまりませんでした。井戸から水を汲み上げる手桶から、浴槽やたらい、大桶にいたるまで、液体を入れるためのありとあらゆる家庭用具、工業製品の製造にまで広がっていました。クロード・ティスランの場合は、ひたすらいワインのためのよい樽作りに打ち込んだのです。

樽が発明されるまでは、ワインは素焼きのアンフォラ(*) に入れて保存されたり、運ばれたりしましたのでうまく熟成しませんでした。当時の主要なワイン生産者であったギリシア人とローマ人は、そのようなワインを飲むに耐えるものにするために松脂や香草を加えざるを得なかったのです。さらに北の地方では、ケルト人、特にガリア人が森で暮らしていました。そこでは親方たちが材木仕事に駆り出され、材木を使ってあらゆる家庭用品を作っていました。そのような状況の中で、ある天才的な発明家が、漏れない、頑丈、扱いやすい、といった特性をすべて備えた木箱に液体を貯える方法を見つけました。これはおそらく一朝一夕にできたものではなく、改良に改良を重ねた結果でしょう。

今日では、ブルゴーニュのブドウ栽培者は、容積228リットルのほぼ



Jean Collardot / ジャン・コラルド

1925年、フランスのニュイ=サン=ジョルジュ市生まれ。69年から95年まで同市の文化・都市計画担当助役を務め、現在「ブルゴーニュの騎士団」長老。外国語、歴史、宗教哲学、デッサン、絵画について造詣が深く、7カ国語を解する。

完璧な容器を手に入れています。細長い形をしているので、移動しやすく、転がしたり、方向転換したり、輪木と呼ばれる一種の木製の梯子の上を転がしながら車に乗せたり、地下蔵に積み重ねることもできます。どうも、この樽は当初はワインではなく、ビールを貯蔵するために発明されたようです。ワイン用にこれを使うと、木を通して大気と交わるために年々味がよくなることに気づくのはずっと後のことです。

樽を作るには、ガリア式測定法に適った厳格な規則を守る必要があります。その測定法はメートル法とは無縁で、ゲージ(標準規)の形で親方から徒弟に伝承されてきたものです。

樽職人はまず、樽作りに必要な材木を手に入れなければなりません。それらを切り分けるのは彼の仕事ではなく、「メランディエ」という別の専門家の力を借ります。この樽板製造工は、樽の本体を形作ることになる側板を職人に供給します。側板は樹齢100年のカシの木から取れるものです。カシの木は筒状に切り分けられた後、引き裂かれます。この作業は大変な職人技を要します。というのも、鋸びきでは木目を大切にすることができないばかりか、火を使った曲げ加工に支障をきたす恐れもあるからです。そしてこの加工により、樽に反りが与えられ、胴と呼ばれる樽の最も膨らんだ部分が形作られます。こういった胴の特性には、地面と接する部分が少なくなるので、樽が転がりやすくなるという利点があります。それに、熟成のためにワインを貯蔵するときにそこに溜まる澱の集積部の役目も果たすこととなります。

曲げ加工を行うには、組立中の樽のまん中で火をおこし、樽職人は鉄の輪をハンマーで叩きながらそのまわりを回り、反りの度合いを強めていくのです。続いて底を調整し、最終的な輪掛けを行います。最後に、樽にポンプで空気を送り込むことによって水密性のテストが行われ、漏れないことが確認されます。

こうして樽作りについて書いてきましたが、星はなんの関係があるのでしょうか。これについてお話ししましょう。若いフェリックスは、幼少の頃から父の仕事場に入り出すのが好きでした。子供に力がついてくるのを親を手伝うのが当たり前の時代でした。学校の成績が優秀でしたので、彼自身いつか樽職人になるなどとは思っていませんでした。ところがこうした徒弟奉公によって、仕事を行ううえでの厳しさと正確さという原則が叩き込まれました。誤りなど許されず、



フェリクス・ティスランの像



Cratere ST GEORGE
(サン=ジョルジュクレーター)

NASAの写真資料による

犯せばただちに罰せられました。使用に適さない樽など作れば大目玉でした。

フェリクスは数学の教授資格を取得するほど勉強した後、有名な天文学者で当時のパリ天文台所長ル・ヴェリエの助手になりました。1873年にトゥールーズ天文台所長に任命され、74年には金星が太陽の前を運行するのを観測しに日本に赴きました。この事象の日付は、彼の師ル・ヴェリエの計算によって予測されたものでした。

樽の中央の火のまわりを回することで、彼は太陽を巡る惑星の公転のヒントを得た、あるいは樽を叩く木槌の音がビッグバン発見の前兆となったとまで言い張るつもりはありません。しかし直線を排した樽の曲線を見るにつけ、1896年に早逝してしまうまでの7年に及ぶ難雑辛苦の末、4巻の本を著すことで天体力学に残した彼の足跡を思い起こさずにはいられません。

彼の業績の一つでもある『天体力学概論』は今日でも影響力をもち、NASAの技術者はここから着想を得て、宇宙船の軌道の予備計算を行ってきました。パリ天文台にいたときに、写真を用いた月の図解の製作を決定したのもフェリクスでした。そのおかげで、この星の征服者たちはどこに最初の一步をしるしたらよいか知ることになるのです。

月の上を歩くことは、好奇心旺盛な人ならだれでも抱いてきた夢でした。しかしこの可能性は長いことSFの領域にとどまってきました。ジュール・ヴェルヌですらその冒険には乗り出しませんでした。彼は著書『月世界旅行』をしたためにすぎません。その中で彼は次のように描いています。「宇宙船を操縦していたアルダン船長は、夜の星(月の意味)の近くに到達すると、ニューイ(「夜」の意味ももつ)の瓶を開けた」。

フェリクス・ティスランに敬意を表してアメリカの宇宙飛行士がニューイ=サン=ジョルジュを訪れたとき、彼らにこの話が紹介されました。ところが、英語には翻訳できない語呂合わせ混じりの描写のため、彼らにはまったく理解されませんでした。それでも、月にもって行って欲しいと、市庁からニューイのワイン1ケースが彼らに贈られました。しかし輸送費がかかるためでしょうか、彼らはこのワインをヒューストンで飲んでしまい、実より名を取って、瓶のラベルを1枚だけ月にもっていきました。

そして彼らは感謝の気持ちを示すためにあることを実行しました。後に分かったのですが、アポロ15号の任務の際、月のクレーターに「サン=ジョルジュ(セント・ジョージ)」と書かれていたのです。ですから今日、はっきりと申すことができます。「ニューイ=サン=ジョルジュの名は、世界はあるか月にまで響き渡っているのです」と。

以上のような次第で、ブルゴーニュ生まれのしがない職人の息子が、故郷の名声を月に届くまで高めたわけです。今日、市役所の前の広場は上述の次第でサン=ジョルジュ・クレーター広場と改名され、その中央にフェリクス・ティスランの像が立っています。

当地のワイン「ニューイ」の友人である月は、古来より夜ごと詩人や恋人たちに夢を見させてきました。そして世界中の言葉で月に詩が捧げられました。フランス語ではアルフレッド・ド・ミュッセ(*2)が、ロシア語ではカラムジン(*3)が、そしてベルシア語ではオマル・ハイヤム(*4)が月について歌っています。また日本では、かの良寛も月に捧げる詩を歌っています。

しかし現代の詩人たちにとっては、月はもはやあまりに現実的すぎます。ブルゴーニュの2人の天才、ニセフォール・ニエプスとフェリクス・ティスランの業績にほかならない、新たな月のイメージは消し去ることはもはや不可能です。しかし私たちは樂觀視しています。ワインの杯の中をのぞけば、カラムジンが月を映してみせた有名な詩が蘇ってきますし、なによりも私たちの心の中には、未踏の広大な世界のイメージが今でも広がっているからです。

(*1) 両耳つきの壺

(*2) 1810-57年、フランスロマン主義の代表的詩人、劇作家。

(*3) ニコライカラムジン(1766-1826年)、ロシアロマン主義の始祖の一人。小説家、歴史家。

(*4) 1048-1131年。天文学者でもあり、ベルシアの世界で最も有名な詩人。

ブルゴーニュへ、ようこそ

中世がほだに息づいているブルゴーニュへいらっしゃいませながら、
種上の結露を生み出すぶどう畑、グルメン・ランの敷々、
中世そのまの街並み、美しく広がる大地や、小さな村々、
豊かな生命力はただの心惹きつける地方、
それがブルゴーニュです。



お問い合わせ
(株)生多局会業務室 担当: 岩沢

Tel. 03 3582 5087